

第二報告概要 (1) 専修大学 上田和勇教授

「異文化経営のリスクと課題－6次元モデルによる文化特性とプロジェクト調査結果による比較分析およびソフト・コントロールによるリスクマネジメントの有効性－日本とベトナムの比較－」

グエン先生の報告にもあった「個人の配慮に及ぼす影響」にも関係している。個々の社員の方へ影響を及ぼす状況を質的にインタビューした結果を報告する。多くの日系企業がベトナムに進出している。現地のマネージャーは様々な形で協力をはかることもあり、トラブルが起きることもある。

うまくいくことを「ハッピー」、うまくいかずパフォーマンスが低下することを「リスク」と呼んでいる。リスクマネジメントはチャンスのマネジメントでもある。社員とのマイナスをコントロールするには2つの側面がある。マニュアルなどハードな面を重視したハード・コントロールと価値観やベトナムの文化、風習を考慮しながら情報共有をして関係性を作っていくソフト・コントロールという2つの側面がある。

リスクマネジメントのプロセス (Cross-Cultural Risk Management Process・以下CCRMP)は 1.日系企業がソフト面をどこまで理解しているかの分析 2.リスクの発見 3.どのようにソフト・コントロール対応するか 4.密に情報共有する の4つの段階からなる。

第一段階は自社を分析。価値観を共有できているかどうか、仕事に対する考え方を把握しているか、コミュニケーションが取れているか。官僚的組織になっていないかを分析する。

第二報告概要 (2) 専修大学 上田和勇教授

異文化経営のリスクと課題－6次元モデルによる文化特性とプロジェクト調査結果による比較分析
およびソフト・コントロールによるリスクマネジメントの有効性－日本とベトナムの比較－

第二段階のリスクの発見についてアンケート結果を共有する。

回答を得た30社中25社が「かなりリスクを感じている」(8社) 「時々リスクを感じている」(17社) と回答。

Geert Hofstedeの6次元モデルと比較(スライド赤字部分に注目) 日本とベトナムの国民特性はかなり違うことがわかる。ベトナムの文化は「権力を重んじる・集団主義・女性的(家庭重視)・リスクを積極的に取る・短期的視点」

Hofstedeの6次元モデル分析とアンケートの結果を確認した。「上司の指示を待つ」、「家族や仲間の重要性が高い」「ミスをして怒らないこと」もアンケート結果にあった。また不確実性の回避志向が低いこと「良い意味でルールを守らない」という回答があった。必要以上のルールは不要というHofstedeの研究とも一致している。長期的志向よりも短期的志向が強い点も一致が見られる。

アンケートの回答から異文化リスクへの対応について「妥協点を見出す」「現地にあったルールの作成」「一緒に食事をする」などソフト・コントロールからのアプローチを相当重視していることが分かった。時間の都合上パネルディスカッションで申し上げるがソフト・コントロールを重視しているということが分かった。